



まつ もと じゅん

中区・磯子区・金沢区

# 松本純

まちかど 政治瓦版



令和6年3月1日号 発行

自民党

神奈川1区支部 発行責任者 平木 茂

3月号  
2024年  
No.252松本純ホームページ▶<https://jun.or.jp/>ご意見箱▶[opinionbox@jun.or.jp](mailto:opinionbox@jun.or.jp)

## 「薬が足りない?!」ジェネリック薬の課題解決へ

令和6年度の薬価制度改革にも注目 これからも働きかけを続けます

昨年7月の瓦版でジェネリックを中心とした薬不足を取り上げました。現在も医療機関・薬局では発注した医薬品が納品されないという、医薬品供給不足の深刻な状況が続いており、各種メディアでも取り上げられています。

こうした状態が長引く中で、問題解決に向けての動きもようやく本格化し始めています。自民党では各種医薬品メーカーと厚生労働省などから聞き取りをはじめ、問題の整理と解決法を模索し、対応を開始しました。

まずこの問題の本質ですが、日本の医療は公的制度(点数)で成り立っています。それに対して、医薬品の製造を担うのは民間企業であり、行政側が直接コントロールできる仕組みではありません。一方で、企業は利益が出ない(赤字になる)仕事はできません。そうした背景のもと、医薬品の価格は算定方式に沿って国が定めますが、市場実勢価格に基づき改定されるため、ジェネリック医薬品の増加によりメーカー間の価格競争が激しくなることで薬価に大きく影響を及ぼしました。

ジェネリックの産業構造にも課題があります。基本的に、ほとんどのジェネリックメーカーには、大量安定供給を維持できる体制はありません。多くのメーカーが同じジェネリックを販売することで、メーカーとしては少量で多品目を取り扱っている現状があります。また、ジェネリックは新薬に比べて低価格であることが売り物でもあり、さきほど述べた激しい価格競争により、原薬の調達を価格が安い海外に頼らざるを得ず、原薬の供給が不安定化しやすい傾向にあります。供給不足になったとしても、増産できる余力がなく、仮に増産要請を受けても、過剰分が出ればその負担は製薬企業が背負うことになり、簡単に増産することは難しい状況です。

この歪みの中で、後発医薬品メーカーなどの不祥事が発生、生産ラインが停止し、結果的に薬不足が発生しています。こうした安定供給等の問題の解消のため、厚生労働省では後発品の産業構造のあり方の検討を進めているところです。また、令和6年度の薬価制度改革では、①安定供給ができる後発品企業の評価の仕組みを導入するほか、薬価の下支えのため、②薬価を維持する「基礎的医薬品」の対象拡大、③不採算品再算定の特例適用(薬価引き上げ)などを決めました。

これにより、医薬品不足は解決に向けて動き出すことになりますが、本質的な問題である後発品の産業構造や原薬の海外依存など抱える問題も多く、今後この課題をさらに解決する必要があります。薬・医療の専門家として、松本純も国民の命を守るためにこれからも働きかけを続けてまいります。

\*文中の医薬品とは保険医療に用いられる医療用医薬品を指します

\*原薬：医薬品の生産に用いられ、医薬品の製造に使用されたときに有効成分となるもの



「創薬の現場」への視察を続けています

【2024年2月】

松

本

純

の

活

動

記

録

- 1日●中区食品衛生協会新年賀詞交歓会
- 2日●磯子区商店街連合会新春の集い
- 3日●森浅間神社節分祭式典
  - 元町嚴島神社節分祭式典
- 4日●八若(本牧元町南部町内会)餅つき
  - 神奈川県郷友会新春親睦の集い祝賀式、親睦式
- 6日●金沢区生活衛生協議会新年会

- 10日●令和6年度宮元若獅子會新年会
  - 横浜中華街発展会協同組合春節賀詞交換会
- 11日●中原熊野神社祈年祭・稻荷祭
- 13日●関内まちづくり振興会新年賀詞交歓会
- 14日●令和5年度神奈川県薬剤師会会长賞等表彰式及び受賞者祝賀会
- 16日●神奈川県私立幼稚園教育振興連盟意見交換会
- 17日●令和6年磯子区薬剤師会「新春の集い」



2/1 池川明×木村良子～これから子育てのお話～胎内記憶研究の第一人者、池川クリニック院長・池川明医学博士主催セミナーに出席。子ども・子育て支援法改正に触れ、産み育てる環境支援について話しました。

2/1 令和6年自衛隊横浜中央募集相談員会新年会～中華街・萬珍樓で開かれた新年会で、栗原俊司会長は「新しい女性本部長には地域密着型の活動をお願いします」と挨拶され、松本純も祝辞を述べました。

2/3 森浅間神社節分祭式典～松本小寿恵宮司により斎行された式典で、松本純は閑勝則市議・新井絹世県議と共に玉串を奉奠。続いて袴を付け、森団子保存会のお団子に合わせて、声高らかに節分の豆を撒きました。



2/3 石川町諏訪神社節分祭～祝詞奏上や玉串奉奠が滞りなく行われ、祭り囃子の披露に会場からは大きな拍手が送られました。松本純は豆まきを行い、会場に集まった皆様との交流を楽しみました。

2/9 金澤ふみくら落語会『ふみくら会閉会の夕べ』～最後となる落語公演の後、懇親会が開かれ会員一人一人より思い出が語されました。友繁照純会長のご挨拶と恒例の手縫いで24年の歴史に幕が閉じられました。

2/10 出町青年会新年会～大石毅泰会長のご挨拶、日ノ出町内会・神田正会長の乾杯の発声で始まった新年会。街づくりや生活の不安など様々な事柄が話題に挙がり、参加した松本純は熱心に耳を傾けました。

いま 地域で  
(ひと・まち・出来事)

地域医療の拠点

## 金沢区「三師会館」の建て替えが決まりました！



三師会館（金沢区金沢町）

横浜市金沢区に、医師会、歯科医師会、薬剤師会の三つの組織が連携して運営し、保険医療に努める三師会があります。三組織が一体となって医療、保健、福祉に取り組む、全国でも殆んど見受けられない法人団体です。

この金沢区三師会は、横浜市から旧金沢保健所跡の木造建物の貸与を受け、休日急患診療や各種事業を続けてきました。昭和47年には社団法人として正式に発足し、地域医療に従事してきましたが、建物の老朽化により昭和57年に現在の施設に改築されました。

以来、多くの皆さんを利用してきた施設も40年以上が経過し、再び建替えが必要となりました。建替えに際しては、仮設移転施設や会館建替え後の指定認可、物価高による建設費の高騰、助成金申請などいくつもの課題がありました。その解決のために、金沢区三師会と関係機関に松本純が提言を行い、市民の休日診療を守るため力を尽くしました。

現在、横浜市において令和6年度予算案審議が行われています。休日急患診療所建替え支援で建設費用の高騰化に伴い補助単価の増額が計上され、指定認可では関東信越厚生局と三師会の間で開設後の経緯や制度が確認されました。

金沢区三師会・若栗直子会長は「松本純先生のおかげで物事をスムーズに進めることができました。国と横浜市に係わる様々な問題解決に大変ご尽力いただき感謝に堪えません」と語ります。金沢区三師会と休日急患診療所が地域医療の使命を担っていると確信しています。新しい診療所は今年の秋以降に建築工事が始まり、来年夏に完成する予定となっており、その間、金沢区谷津町に仮設施設が開設されます（詳しくは電話045-782-8785 同施設へ）。